

**文学部・文学研究科**

- I 研究水準 ..... 研究 1-2
- II 質の向上度 ..... 研究 1-3

## I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、人文学諸分野にわたって、学会やセミナー等を通じ、国際的な学術交流も積極的に推進されるなど、研究活動は極めて活発であり、論文のほとんどは招待論文（387 件）や査読論文（95 件）である。また、社会文化の向上に寄与する翻訳や辞典の編纂のほか、市民向けの講座等、社会の中の人文学研究を意識した取組がなされている。研究資金の獲得状況については、過去 3 年間の科学研究費補助金の平均採択率が 50%を超えており、21 世紀 COE プログラムを含むそのほかの競争的資金の獲得により、活発な研究活動が展開されていることは、優れた成果である。

以上の点について、文学部・文学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、文学部・文学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

### 2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、哲学、日本語学・文学、東洋史等の分野において先端的な研究成果が数多く生まれている。卓越した研究成果として、例えば、日本語の基本的な存在動詞機能の歴史的展開の解明や三角縁神獣鏡の研究等が挙げられる。ま

た、スピノザ、世阿弥、ウイグル・マニ教についての研究においても優れた学問的成果を上げており、例えば、哲学専門誌や新聞書評欄等で高い評価を受けている。社会、経済、文化面では、美学・美術史、ヨーロッパ系語学文学の領域で優れた成果が発表されており、例えば、ゴッホ展では、入場者数が美術展覧会史上記録的な数になったことなどは、優れた成果である。

以上の点について、文学部・文学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、文学部・文学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が 3 件、「高い質（水準）を維持している」と判断された事例が 1 件、「相応に改善、向上している」と判断された事例が 1 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。